



難有りてよし

校長 海發 真一

私が二十代の教員の頃、始業式でY校長先生から「難有りてよし」というお話がありました。

難とは災いや災難のことで、これは誰にも起こってほしくないことです。では、困難はどうでしょうか。困難とは、物事を行うことが非常に難しいこと、苦勞することの意味です。こちらについても、目の前にはだかる障壁や苦勞がなければ、物事が順調に進むので、これも起こってほしくないことなのかも知れません。しかし、Y校長先生のお話はこう続きます。

自分のしたいことが障壁もなく思いのとおりに進めば、世の中、何でも自分の思いどおりになると勘違いし、傲慢な人間になってしまう。しかし、自分の行動の前に困難や苦勞が立ちはだかっていれば、世の中、自分の思いのとおりには簡単にいかないこともわかるし、それでも目標を遂げようと思えば、人一倍の努力や我慢、工夫が必要になる。こうやって困難に打ち勝ち、目標を達成したときの喜びは何事にも替え難いし、努力する気持ちや我慢する心、たくましい精神力が結果として身に付いてくる。

私がこのお話をお聞きして思ったことは、困難な状況があることによって、うまくいかなかったときの気持ちや苦勞を自覚することができるため、他者の心の痛みが理解できる、相手の身になって物事を考えられる心やさしい人間になるということです。

有難うは有り難きが語源で、難が有ることではありませんが、困難に打ち勝って目標を達成したときには、その喜びとともに、人間としての大きな成長を遂げられたことに、有難うの気持ちを表すことができます。

自己組織化(＝自分自身でかたちをつくること)

副校長 増田 雅子

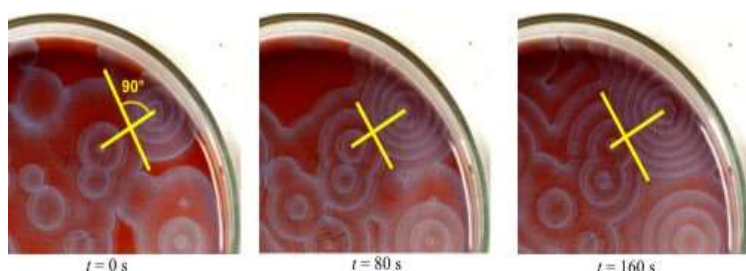
2011年3月11日14時46分、皆さんはどこで何をしていましたか？東日本大震災、福島原発爆発事故があった2011年は日本に大きな変化を促す大変な年でしたが、その年の暮れに、茨城県的女子高校生が、「BZ反応」で新発見を行い、「リケジョ」が注目を集めるきっかけの一つとなりました。彼女たちは、週末に「BZ反応」の実験を行い振動反応が止まったためカラオケに行ってしまう、月曜日に学校へ来てみたら液の色が変わっていたことから大発見となりました！！「変化の終わった試薬の反応が復活する」という新発見です。それからのデータのまとめなどは大変だったと思いますが、高校生らしい行動と偶然による明るいニュースでした。発見者の女子高校生は祖父母が農家の家で、小さい頃から米や野菜の収穫を手伝う普通的女子高校生。近くの川でメダカと遊んだりするうちに動物や植物が大好きになったそうです。数学が苦手にもかかわらず入学して、最初の部活動見学で溶液の色が赤、青、赤、と交互に変化するのを見て感動し同好会に入会。顧問の先生から「植物でも、動物でも化学からのアプローチはおもしろいよ」とアドバイスを得て、「女の子3人で、授業が終わると毎日実験室に通いました。触媒や溶液の条件を少しずつ変えながら反応を見て、1回の実験にかかる時間は48時間。テスト前などには面倒だなと思う時もあったけど、授業や友達の話をして3人で話しながら楽しく続けられた」と当時の新聞で語っていました。環境と個性的な本人の育ち方によってもたらされた必然の新発見で、今は地元の大学へ進学、将来は茨城の自然のために働きたいと抱負を語っています。

この新発見は科学用語でいえば、「自己組織化 (self-organization)」に似ているそうです。「自己組織化」とは周囲の環境に働きかけて自律的に秩序を持つ構造を作り出す現象のことで、雪の結晶や孔雀の羽の美しいフォトニック結晶、シマウマのゼブラ模様など様々な自然現象に見出すことができます。特に生物の細胞がDNAを設計図として様々な機能

を持った組織を作り出す現象は、高度な自己組織化の結果と考えられています。

新入生は3年間、在校生は残りの高校生活の中で、自分自身の形をつくっていくこと、環境や友人、先生方といい関係で化学反応をおこし、さらに自己を高めていくことによって、多様な個性をもった一人ひとりのオンリーワンの自己組織化（self-organization）が実現されるのではないのでしょうか。田高の皆さんがこの学び舎で行事や委員会、部活動そして学習にひたすら夢中になって、グラウンド、教室や図書館、廊下のスペースなど様々な場所と時間に自分と向き合い、友達とともに学ぶことすべてにおいて、自己組織化が進みます。1学期に計画されている、大学の先生方による出張講義も、世のためひとのためと探求し続けている一流の先生方の実践を見ることになります。ひとは希望があるとき、『夢中人』になるとき、人間的な化学反応も早まるのではないのでしょうか。

本校の校歌は北原白秋門下の歌人木俣修作詞により、学校だよりの命名『さきはへよ』は校歌の一節「さきはえよ この窓 田園調布 ああわが母校」からだそうです。『幸へよ(さきわえよ) 豊かに栄えよ』 「さきはう」とは『幸いをもたらす』『幸運にめぐり合う』という意味です。田高の皆さんの自己組織化の努力は必ずハッピーな結果をもたらしてくれると信じています。夢は逃げていかない。逃げるのは自分自身。自分があきらめない限り、BZ反応の女子高校生のような幸運も訪れるでしょう。田高に関わる色々な人とそんな環境を皆さんと共に作っていきたいと思います。



BZ反応(ペロウソフ・ジャボチンスキー反応)：シャーレ内で進むペロウソフ・ジャボチンスキー反応。80秒、160秒と時間が進むにつれて、同心円状のパターンが広がっていく様子が観察できる 出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』

就学支援金のお知らせ

経営企画室

平成28年7月からの授業料に充当する就学支援金の申請時期になりました。6月23日(木)のホームルームで生徒さんに申請用紙をお渡しする予定ですので、ご記入のうえ、必要書類を添えてご提出ください。申請・不申請にかかわらず書類の提出が必要ですので、よろしくお願いします。

進路指導部より

進路指導部主任 駒場 晃

昨年度の進路状況について

今春卒業した64期生の進路決定状況を報告します。

	大 学	短 大	専門その他	就 職	未定・浪人	留 学	計
男 子	72	1	5	2	33	1	114
女 子	79	3	13	0	15	0	110
計 (%)	151 67.4%	4 1.8%	18 8.0%	2 0.9%	48 21.4%	1 0.0%	224

4年制大学現役合格者の受験形態について

	指定校推薦	公募制推薦	AO	センター	一般	計
男子	5	2	0	34	131	172
女子	16	5	10	47	98	176
計	21	7	10	81	229	348

詳しくは、後日配布の「SUCCESS!」をご覧ください。

64期生は、例年になく推薦・AO入試の受験者数が少なく、一般入試に向けて最後の最後まで努力していた学年でした。卒業式後も入試に挑戦した生徒もあり、結果的に4年制大学合格数が過去最高となりました。

3月に現3年生対象に行われた「先輩の体験を聞く会」では、卒業生が、「仲間と切磋琢磨できる受験生になってください。」「自分のような失敗をしないためにも、授業を大切にしてください。」などと強調していました。

また、4月に行われた進路希望調査では、各学年ともに4年制大学志望者が90%を超える結果となっています。この進路希望を実現するためには、充実した学校生活だけではなく、ご家庭での規則正しい生活と計画的な家庭学習が必要不可欠となります。ホームルームや進路指導部の掲示物等で指導して参りますが、ご家庭におかれましてもご指導のほど、よろしくお願いいたします。

田高生全力発揮 6月4日(土)体育祭実施

体育祭担当 猪狩 洋一

本年度は、3年ぶりに好天に恵まれた体育祭を行うことができました。

体育祭実行委員会は2・3年生を中心に、スローガンの募集と決定から始まり、3年生女子の学年種目を変更するかどうか、例年2グループによる発表を行っていたエキシビションが1つになり、空いたその発表時間で新しく「部活動対抗リレー」を行おう、結団式の準備、クラスごとのエントリー表がなかなか集まらない等々の課題を短時間の間に確実にこなし、準備を進めてきました。

中間考査を挟んで行われたクラス練習は、本年度は昼休み時間や休日の競技練習は行わないことになり、放課後の練習時間も短縮され、回数・時間ともに例年より少なくなりましたが、早朝練習、放課後練習共に毎回グラウンドに空きスペースがないほど活発に行われていました。

応援パネル、スローガンパネルの制作も2年生が1年生を引っ張り、短時間で各学年有志と美術部がそれぞれに個性あふれる合計4枚の作品を完成させました。エキシビションの発表も含め、熱の入った練習や制作の成果を十分に発揮した当日の競技・演技を見て、田高生には「短期間に大きな集中力を発揮して、協力して行事に取り組む力が有る」ことを改めて強く感じました。

予行の前日の準備、予行練習、当日の早朝からの係準備、本番の各係の活動、終了後の片付け。これらの全てに生徒・教員が一丸となって一生懸命取り組み「大成功・大感動」の熱い一日を無事に終えることができました。

事前の「体育祭のご案内」には、「グラウンドが狭くなり、保護者席が十分に確保できない」とのおことわりを書かせていただいたにもかかわらず、大勢の保護者の皆様がご来校ご観覧くださり、あたたかいご声援を送っていただきました。ありがとうございました。また、受付や給水所、場内整理などで陰から支えてくださったPTAの役員の方々、本当にありがとうございました。

●結果● 総合優勝：D組 総合準優勝：B組

●観覧者数● 保護者・家族：424名

(1年生：145名、2年生：136名、3年生143名)

来賓：16名 卒業生：27名

近隣の方：1名 中学生：1名 総計 469名



67期生を迎えて

第1学年 吉田 宣浩

67期生を迎えて、早くも2ヶ月が経ちました。最初は、緊張気味だった生徒たちも、授業や部活動などを通して徐々に田園調布高校になじんできたと思います。特に、4月27～28日にかけて神奈川県三浦市で行われた第3回スタディキャンプ（勉強合宿）では、予備校や手帳制作会社から講師の先生を迎え、主に4月当初の実力テストの振り返りを中心に時間的にも内容的にも充実したものになったと思います。67期生はこの行事を通して、高校生活における学習の大切さを学ぶと共に、共同生活を通して同級生同士の人間関係が深まったように思います。

また、6月4日に行われた体育祭では、学年種目である「全員リレー」や「ジャンプ！jump！」「ホップ・ステップ・シュート」を始め、他の学年と合同で「イントゥザハリケーン」「ケルベロス」など一生懸命汗を流していました。次は、ぼろにあ祭（文化祭）に向けて頑張ってもらいたいと思います。

どの行事も過程を大切に！

第2学年 玉田 将太

晴天の体育祭。天気にも恵まれた体育祭期間はここ数年記憶にない。ただ、練習日が例年より少なかった分、各クラスの練習量は満足いくものにはならなかったかもしれない。その中でも作戦を練り、声を掛け合い、各種目に必死に取り組む姿が随所に見られた。普段あまり見ることでできない勝利にこだわる田高生の姿が見られる1日だった。

結果と共に「過程」を大切にできた2学年。優勝クラスだけではなく、どのクラスも終わりには笑顔で溢れる体育祭の閉幕となった。勝利を目指し、練習段階から一生懸命取り組んだからこそ得たものも多いだろう。

今年度はどの行事も学校を中心として2年生が動いていく必要がある。自分たちから動き、内輪で楽しむだけではなく、誰もが楽しめる行事を自分たちの手で作り上げてほしい。体育祭を経験して一回り大きく成長した66期生1人1人の絆の強さに今後も期待したい。

熱く燃えろ！！

第3学年 荻原 秀明

先日、3年生にとって人生最後の体育祭が開催されました。それぞれの思いが爆発的な力を発揮させ、どのシーンを取っても多くの感動が生まれました。閉会式後、クラスや仲間と写真を撮る中、誰もが素敵な表情を浮かべているのが印象的でした。

もう始まっていますが自己実現目指して、勉強モードに入っています。体育祭で見た「爆発的な力」を勉強に向けて欲しいと切望します。また、模試の結果で「一喜一憂」せず、弱点をしっかりと克服するなど、「冷静さと計画的な勉強」ある意味「強(シタ)か」であることも必要かもしれません。

